

授業科目区分	授業科目名	授業方法	単位	時間	関連の深い授業科目
専門基礎	柔道1	実技	1	20	解剖学・運動学・柔道整復理論・ 柔道整復実技
学科 ・ 学年	担当教員名	科目関連 実務経歴	実務経歴・分野・授業科目との関連等		
柔道整復学科 1年	太田 直樹	☐ 有 ☒ 無			
授 業 目 標 *詳細な目標は、授業の冒頭で提示					
柔道を表す言葉、「精力善用」「自他共栄」の意味を理解させる。 「礼に始まり礼に終わる」という柔道の心(礼法)を理解・習得させ、日常生活に活かせるようにする。 受け身を取得させ、日常生活で怪我を起こしにくくする。 「柔能く剛を制す」の考え方の中にある、力の使い方(体さばき・崩し・作り・掛け)を理解・習得させる。 「投げの形」を習得する。 柔道初段取得を目標とする。(2年次) 実技認定試験(柔道)合格を目標とする。(3年次)					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
柔道の授業で求めるものは、「強さ」ではありません。 我慢し努力することの尊さ、人や物に対し敬い感謝する心を育てましょう。 柔道は相手がいて初めて練習ができます。常に相手に感謝する心を持ちましょう。					
教科書・参考書					
プリント・・・「見る・学ぶ・教える イラスト柔道の形」の一部参照 DVD					
受講時留意点、その他					
【 受講科目受講時留意点 】 ●毎回、授業開始時は柔道着に着替え(男子は教室、女子は更衣室)、授業開始までに柔道場にて待機してして下さい。 ●クツは下駄箱に入れること。 ●女子は白で無地のTシャツを着用すること。男子は下には何も着用しないこと。 ●女子で髪の毛の長い者は、必ずゴムで束ねること。 ●装飾品を必ず外すこと。(柔道場に荷物は一切持ち込まないこと) ●柔道場内は飲食禁止。 ●背中にゼッケンを付け、名前を記入すること。(取れたらすぐ縫うこと) ●柔道場に入るときは、一礼して左足から入り、柔道場から出るときは右足から出て一礼すること。 ●授業中にふざけた態度をとらないこと。(大事故につながる危険性があります) ●授業中に座って見学する際、正座もしくはあぐらの姿勢でいること。(立膝は禁止) ●立っている際や、座っている際に壁に寄り掛からないこと。 ●人の前を通る時は、必ず一礼してから通ること。 ●挨拶や返事はしっかり声を出すこと。 ●授業内で出来ない場合、必ず自主的に練習すること。 (「施設使用許可願」の申請が必要―印鑑を用意して下さい) ●柔道着は必ず持ち帰って毎回洗濯すること。(シミが出来たり、カビが生えやすい為) ●柔道場の掃除をきれいにすること。(柔道場の掃除の仕方に準ずること)					
成績評価方法					
評価 方法	評価 割合 (%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期 試験	100	定期試験を行います。 ※ 柔道着の着方、身なり(爪・髪・ゼッケンなど)も点数に入ります。 ※ 口頭試問に関しては、70点満点とする。			
その他		※ 柔道着の貸し出しはしません。			
(合計)	100				

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
1		礼法(立礼・座礼) 柔道着の着方、たたみ方。 重心と支持基底の関係。		/	太田
2		礼法(立礼・座礼) 受身(後受身・横受身・前受身) 組み方 足さばき・崩し		/	太田
3		礼法(立礼・座礼) 前回受身(左右) 寝技(袈裟固)		/	太田
4		礼法(立礼・座礼) 前回受身(左右) 寝技(横四方固)		/	太田
5		礼法(立礼・座礼) 前回受身(左右) 寝技(縦四方固)		/	太田
6		礼法(立礼・座礼) 前回受身(左右) 寝技(上四方固)		/	太田
7		後期定期試験		/	太田
8		前回受身(左右) まとめ		/	太田
9		前回り受身(左右) 浮落		/	太田
10		浮落		/	太田